

未

知への探求を追った優れたノンフィクション作品に贈られる、第2回「梅

棹忠夫・山と探検文学賞」に、中村保氏の『最後の辺境 チベットのアルプス』の受賞が決まった。

中村氏は、1990年から「チベットの東」(中国・雲南省、四川省、東チベットなど)を30回以上踏査してきた。当地は、政治的理由により長く禁断の地とされており、ほとんどが未知・未踏の世界であった。その成果は『ヒマラヤの東』『深い浸食の国』『チベットのアルプス』(すべて山と溪谷社)などにまとめられ、秩父宮記念山岳賞を受賞するなど高い評価を受けた。

中村氏の踏査行は日本山岳会の英文ジャーナル『Japanese Alpine News』で掲載されたことにより海外でも注目を浴びる。著名クライマーであるミック・ファウラー(英)による四姑娘山南壁の登攀や、チャド・ケロググ(米)の同地における数々の記録は、中村氏の写真を見たことがきっかけとなり成し遂げられたものだ。

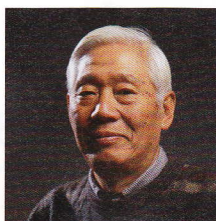
今回、「梅棹忠夫・山と探検文学賞」を受賞した『最後の辺境 チベットのアルプス』は、これまで行なってきた中村氏の踏査行の集大成ともいえるもの。この著書に対し、フィールドワークの重要性や地図の正確さ、中村氏の飽くなき探究心などが評価され、受賞

第2回「梅棹忠夫・山と探検文学賞」を『最後の辺境 チベットのアルプス』が受賞

中村 保=写真提供 神谷浩之(本誌)=文



2006年8月に訪れたLhagu-Kangri Garpoにて



中村 保
(なかむら・たもつ)
1934年生まれ。日本山岳会名誉会員。『Japanese Alpine News』編集人。『The Alpine Journal』『The Himalayan Journal』など海外山岳誌への寄稿や、世界各地での講演も行なう。

梅棹忠夫・山と探検文学賞

生態学にはじまり、民族学、比較文明学などで学術的偉業を残した梅棹忠夫氏を称え、2010年に創設。

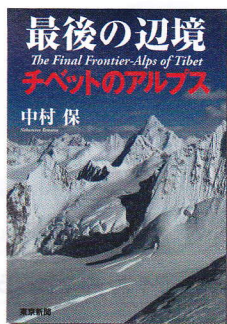
が決定した。

中村氏からは、今回の受賞を受け、以下のようなコメントを寄せていただいた。

「偉大な先輩にちなんだ賞をいただけることは、この上ない荣誉です。08年の英国王立地理協会のバスケット・メダル受賞に次いで自分史に金字塔として残ります。文字どおり『最後の辺境』の22年にわた

る踏査と海外への発信を通じて、世界の「オンリーワン」になれたことの感慨はひとしおです。

次の、英国登山界の期待に応えてライフワークとして取り組む『チベットのアルプスと辺境の地図集』(英・日・中国語)の励みになります。この地図集は、半世紀は価値を失わないものになるでしょう」



『最後の辺境 チベットのアルプス』

東京新聞 ☎03-6910-2527
480ページ 3000円 12年4月刊